

		番号	B 中間アウトカム	番号	A 分野アウトカム
がんの予防	①生活習慣(喫煙)	1	喫煙率と受動喫煙が減少できている	1	がん種別年齢調整死亡率(75歳未満、全年齢)が減少できている
	②生活習慣(飲酒)	2	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者が減少できている	2	がん種別罹患率が減少できている
	③感染症対策(HPV)	3	HPV感染率の低下ができている		
	④感染症対策(肝炎)	4	B型・C型肝炎ウィルス陽性者数の減少ができている		
	⑤感染症対策(HTLV-1)	5	HTLV-1 感染者数の減少ができている		
がん検診	①科学的根拠に基づくがん検診の実施について	1	科学的根拠に基づいた検診の実施ができている	1	有効ながん検診を有するがんの死亡の減少ができている
	②がん検診の精度管理等について	2	検診の質の管理体制の構築と精度向上ができている	2	有効ながん検診を有するがんの進行がんの減少ができている
	③受診率対策について	3	科学的根拠に基づく受診勧奨を行い、検診受診率の増加ができている		
がん医療提供体制	①医療提供全般	1	患者が、「がん診療を行う医療施設」(「施設」)で、医療機関の機能分担を通じた質の高い安心な医療の効率的な提供が受けられている	1	がん診療の質の向上と均てん化が行われ、患者に提供できている
	②病理診断	2	患者が、速やかな病理診断を受けられている		
	③がんゲノム医療	3	患者が、がん遺伝子パネル検査を受け、その結果に基づいて治療が選択できている		
	④手術療法	4	必要な患者が、最適な手術を、タイムリーで質が高く安全に受けられている		
	⑤放射線療法	5	必要な患者が、最適な放射線治療をタイムリーで質が高く安全に受けられている		
	⑥薬物療法	6	必要な患者が、最新の知見に基づく最適な薬物療法を、タイムリーで質が高く安全に受けられている		
	⑦チーム医療の推進	7	患者が、医療者の間の情報共有ができた医療を受けられている		
	⑧医療実装	8	患者が、新規に認可された医薬品、医療機器及び医療技術を受けられており、希望する患者が治験等に参加できている		
緩和・支持療法	①緩和ケア	1-1	がん患者及びその家族の苦痛の軽減ができ、QOLが向上できている	1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている
		1-2	緩和ケアの質の向上ができている		
	②在宅医療	2	希望する患者の在宅医療への移行が十分にできている		
	③リハビリテーション	3	「施設」では、必要な全ての患者に、適切なリハビリテーションができている		
	④支持療法	4	「施設」では、各種ガイドラインに基づく十分な支持療法が行われている		
	⑤妊孕性温存療法	5	妊孕性温存療法及びがん治療後の生殖補助医療が十分に行われている		
個別のがん対策	①希少がん	1-1	希少がん患者の生存率の改善ができている	1	がんの種類、年代、住んでいる地域に拘わらず、がん診療の質の向上ができている
		1-2	希少がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている	2	がんの種類、年代、住んでいる地域に拘わらず、全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている
	②難治性がん	2-1	難治性がん患者の生存率の改善ができている		
		2-2	難治性がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている		
	③小児がん	3-1	小児がん患者の生存率の改善ができている		
		3-2	小児がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている		
共生	④AYA世代のがん	4-1	AYA世代のがん患者の生存率の改善ができている		
		4-2	AYA世代のがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている		
	⑤高齢者のがん	5	高齢者のがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている	1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている
	⑥離島・へき地	6-1	離島・へき地のがん患者の生存率の改善ができている		
		6-2	離島・へき地のがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている		
基盤	①相談支援	1-1	がん患者やその家族等が、質の高い相談支援を受けることができている		
		1-2	患者やその家族が、ピアサポートを受けることができている		
	②情報提供	2	患者やその家族が、医療者から十分な情報を得ることができている		
	③デジタル化	3	デジタル化によりがん患者・家族を含む国民が、適切な情報・医療資源・支援に容易にアクセスすることができている		
	④就労支援(医療機関側)	4	がん患者とその家族が、仕事と治療の両立についての必要な支援を受けることができている		
	⑤就労支援(職場側)	5	がん患者とその家族が、仕事と治療の両立についての必要な支援を受けることができている		
	⑥アピアランスケア	6	医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアを受けることができている		
	⑦自殺対策	7	がん患者の自殺を減らすことができている		
	⑧がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭	8	がん患者の疎外感の解消やがんに対する偏見の払拭ができている		
基盤	①研究の推進	1	社会医学研究や臨床試験等を推進することにより、沖縄県の特性、疾病及び医療の現状等が明らかになるなど、がん対策の基礎資料が整備されている	1	全てのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上ができている
	②人材育成の強化	2	必要な知識を身に着けた専門的人材が増加し、適正な配置ができている		
	③がん教育及びがんに関する知識の普及啓発	3	県民ががん予防や早期発見の重要性を認識し、がんを正しく理解し向き合うことができている		
	④がん登録の利活用の推進	4	全国がん登録/院内がん登録の利用ができている		
	⑤患者・市民参画の推進	5	がん対策の重要性を認識し、がん医療について正しい理解を得、医療の向上に向け自らも協力する県民(がん患者含む)の割合が増加できている		